

令和 4 年度

事業所名 : グループホームゆうゆう八木沢

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200228		
法人名	合同会社 ライフサポート・ゆうゆう		
事業所名	グループホームゆうゆう八木沢		
所在地	〒027-0031 岩手県宮古市八木沢第5地割85番地1		
自己評価作成日	令和4年9月10日	評価結果市町村受理日	令和4年12月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナウイルスが流行し、例年通りの活動が未だできていない。外部との接触があまりない中、所内の活動を充実させるため、得意なこと、自分でできることをご自分でして頂くようにしている。食器拭き、食器の片付け、洗濯物をたたむなどは手伝って頂いている。利用者様は高齢化しており今までできたことが少しくずつできなくなってきた。体調の急な変化も増えている。職員は利用者様の日頃の食欲、体調の変化に気を配り、訪問看護師と連携し急変等に対応している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は海沿いにあったが、東日本大震災の被害に遭い、津波被害のない現在の地に移っている。海沿いの国道45号線から内陸側に自動車で5分程入った山間に事業所が有り、周辺には民家や畑などが点在し穏やかな環境で、市街地にも近く利便性にも恵まれている。隣接のデイサービス、訪問介護事業所、居宅介護支援事業所、道路を挟んだ向かいにあるグループホームと連携して運営されている。経営者や管理者は、職員からの意見や要望に沿って、浴室へのリフトの設置やタブレットの導入で負担の軽減を図っているほか、職員を育てる取り組みとして、所内の研修や外部の研修に加え、令和4年7月からは、eラーニングを活用した研修も行っている。入居者の重度化の進行に応じ、入居者・家族のニーズや意向を汲み取り工夫して支援していたが、令和4年から在宅対応する市内の医院と訪問看護事業所と契約をし、健康面での安全配慮の体制を向上させている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年11月14日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名 : グループホームゆうゆう八木沢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に掲示し常に目につくようにしている。	理念は、開設当初に代表社員と管理者とで作った。人型のイラストに理念の言葉を入れ込み、見やすく分かり易いように表現している。理念を共有し、意識づけしていくため、事務所に掲示しているほか、職員の連絡ノートに綴じて、いつでも見れるようにしている。介護目標にも反映させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	新型コロナウイルス流行中のため中止となっているが、地域のお祭り、地域交流会に参加し近隣の方との交流会を行っている。 自治会長はじめ、地域の方も運営推進委員になっている。	自治会に加入し、草刈など清掃活動に職員が交代で参加しているが、コロナ禍のため、地域住民との交流は見合わせている。地区の敬老会は中止となり、参加予定の入居者は記念品をいただいた。コロナ禍収束後には、交流を再開したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナ流行前は「ゆうゆう祭り」を行い、事業所の存在を広めていた。茶屋も地域の方が利用できることを紹介している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	グループホームでの取組、行事などを報告し、感想、意見を頂いている。ヒヤリハット等は委員の方々の意見を頂き、サービスの向上に活かしている。	昨年度は1年間書面開催であり、この8月、10月も書面での開催としたが、6月には参集での運営推進会議を開催出来ている。委員の宮古市職員からヒヤリハットについての質問があり、転倒の防止対応等について意見交換し、防止に向けた対応と次の段階の検討(計画作成等)を行うなど、サービスの向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市の職員、地域包括の職員の方も出席されている。地域住民の方からの質問、意見に答える等の情報交換もなされている。	運営推進委員でもある市担当者とは、メールを中心に介護保険、コロナ関係、防災、会議や研修、関係法令の改正等、適宜情報をいただき業務に活かしている。また、事業所の課題についても運営推進会議等を通じて、共有することが出来る。地域包括支援センターとも同様に連携し、各種情報の共有等に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	所内の研修の中で定期的に身体拘束について学んでいる。スピーチロック等の虐待についても身体拘束になると学んだ。	身体拘束適正化委員会を4月、6月及び9月に開催し、権利擁護等を含めて、身体拘束に係る職員の理解を促している。利用者が安全かつ自由に暮らせるようスピーチロック等の研修を開催し、ケアの向上に努めている。市が作成した身体拘束に係るマニュアルも活用している。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームゆうゆう八木沢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の定義について学び、どんな些細な虐待も見逃さないよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	所内会議の中で取り上げていく予定である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は利用者と家族が同席し、不安や疑問点が無いか確認したうえでやっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に要望を聞くほか、運営推進会議に利用者やご家族にも参加して頂き、意見や要望を頂戴している。	利用者からは、食後の空き時間等に1対1で悩みや困っていることを聴き通よう努めている。家族には、通院に付き添う際に意見や要望等を伺うなどしている。また月1回の広報発行に併せ、利用者の健康状態などを家族へ手紙でお知らせしながら、手紙でのやり取りでも意見・要望等を伺うなどしている。家族から意見を聴き、起き上がりが出来なかった入居者が、出来るようになった事例もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の所内会議や、年1回の職員と役員との面談の際に職員からの意見や要望を聞き、事業の運営に活かしている。	毎日の申し送りや毎月の所内会議、年1回の役員との個人面談を通じ、職員の意見や要望を聴き運営に活かしている。浴室へのリフトの設置や、タブレットリフトの導入で職員の負担を軽減している。また、本年7月から、eラーニングを活用し、職員はそれぞれ研修を受講している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回、代表社員を含む役員と職員との面談を行っている。就業環境について個別に話し合っている。		

事業所名 : グループホームゆうゆう八木沢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内の研修や、職員各々の経験年数やケアの力量に合わせた外部の研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現時点ではメールや電話等で情報交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	「その人の歴史と尊厳、つながりを大切にして寄り添い、見守ります」という介護理念の下、本人の言葉に耳を傾けたり、言葉で表現できない利用者に関しては、心身の状態を観察し本人の安心を確保している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用の前に見学に来ることを勧めている。その際や入居時に居室や浴室、トイレ等事業所内を見て頂きながら、不安や要望を聞き、具体的に答えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時に本人、家族、前任ケアマネに同席又は情報を頂きカンファレンスを行い、サービス内容を検討する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	茶碗拭きや洗濯物たみ等は、利用者様が自分の役割と思って行っている。行事食の献立等は利用者様に聞いたり、郷土料理の作り方など教えて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月1回、事業所での様子をお伝えする手紙を送っている。通院の付き添いをお願いしたり、利用者の対応についてもご家族に相談したりしている。		

事業所名 : グループホームゆうゆう八木沢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親戚との年賀状や暑中見舞い等の手紙や電話のやり取りを継続できるよう支援している。また、毎晩娘さんに電話している利用者には携帯電話の操作を手伝っている。	家族や前任のケアマネ、サービス事業者から、入居前の地域との関わりについての情報を得ている。友人からの手紙に入居者と一緒に返事を書いたり、毎晩寝る前に電話を娘に掛けて挨拶してから就寝したりと、馴染みの関係の継続を図っている。5月頃、成年後見をお願いしている保佐人と一緒に、生まれ家を見てきた方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の座席は体調や人間関係を考慮して決めている。時には職員が間に入り、潤滑油の役割をするよう心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了された利用者のご家族が、散歩の途中に寄って頂くことがある。今後も必要に応じたフォローをしていく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	要望や希望を言える方だけでは無いので、表情や仕草からくみ取るように努めている。	多くの入居者は意思表示ができる。職員は、限られた数ではあるが、利用者の思いや意向の把握に丁寧な努めている。意思疎通が困難な方は、身振りや表情、仕草などから汲み取るように努めている。以前より、職員が入居者の思いをじっくりと聴く時間が増えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	仏壇や家族の写真等、本人の馴染みの物を置いて頂いている。また利用者との会話の中から利用者の過ごしてきた環境や習慣を知り、それらを崩さないように配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日3回のバイタルチェックと排泄や食事のチェック表で身体の調子や排泄のリズムなどを確認している。ケース記録には午前・午後・夜間の過ごし方やその時の言動を記入している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が本人、家族に確認し介護計画を作成している、毎月の所内会議にて介護計画を職員に確認してもらい、ケース検討の機会を設けている。	介護計画は、家族の意向を確認し、職員全員でカンファレンスを行い作成している。本人の好きなことや暮らし方の意向を反映し、職員の気付きや意見も盛り込んだ内容となっている。状況が変化した場合や要介護認定申請の際には、実態に即した介護計画の見直しを行っている。	

事業所名 : グループホームゆうゆう八木沢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日ケース記録を入力するほか、気づいたことはミーティングノートに記入し、職員間の情報共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者・ご家族のその時々要望に臨機応変に対応する事を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(新型コロナ流行以前)地域交流会に利用者・職員が毎月参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	どの利用者も入居前からのかかりつけ医を継続している。通院時には事業所のバイタルチェック表を持参、主治医に日々の状態を伝えている。体調で気になる時は電話でかかりつけ医に相談している。	利用者全員が、入居前からのかかりつけ医を継続して受診している。通院時の対応は家族3名、職員6名である。職員が付き添った場合には、診察結果及び投薬変更があれば家族に報告し、了解を得ている。日頃の体調(バイタル)や様子については、その都度家族に説明するとともに、主治医へも報告し、アドバイス等をいただいている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に2回、訪問看護師が来所する。日々の様子、気になるところがあれば訪看用ファイルに記入し、相談している。夜間や訪問日以外でも急変があれば対応を相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	緊急時でもすぐに利用者の情報を医療機関に提供できるよう、利用者情報を作成している。入院時には各病院の医療相談室や相談員の方から詳しい情報をいただいている。		

事業所名 : グループホームゆうゆう八木沢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に当事業所では看取りを行うことを説明している。現在まで看取りをした利用者はいないが、終末期のあり方について職員が本人や家族と話すことが出来るよう、看取りについての研修を行った。	入居時に基本的に看取りはしない旨を説明し、家族の了解を得ている。利用者が重度化した場合には、対応できる段階までは行うが、事業所での対応が困難になった場合には、医療機関への入院や他の施設へ移っていただくこととしている。職員への「看取り」に関する研修を年1回行い、本年4月からは看護師が定期的に訪問している。利用者の状態に変化が生じた際には、その後の対応について、家族と話し合うこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が新任研修時に「普通救命講習」と「AEDを用いた心肺蘇生」の講習を受けている。その後も2～3年おきに講習を受け、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施。合同の火災訓練時には地域の方にも参加していただいた。また、水害時に備え、系列のGHまでの避難訓練を実施している。	定期的に防災訓練を実施し、法人内の他事業所との合同訓練では、近所の方も見守りに協力していただいている。事業所付近は、ハザードマップで洪水浸水区域に指定されており、水害を想定し、道路を挟んで向かいにあるグループホームの2階を避難場所として訓練を行っている。車椅子利用者の避難が課題としている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴は個浴となっている。排泄や入浴の介助や見守り、居室の訪問時は利用者に声掛けしてから行っている。	利用者一人一人の言動について、否定はしないで受け入れるとともに、職員側は指示・命令にならないよう、お願いする口調で話すなど、言葉のやり取りには十分配慮している。夜間、頻繁に起きて職員を呼びトイレに行く利用者もいるが、職員間で対応方法について話し合うなど、改善策の検討も行われている。	職員間では、研修等を通じて利用者への話しかけ方、言葉の遣い方など、どのような対処方法が良いのかや、利用者の尊厳ある姿について考えていくことが大切です。利用者の良い点を見つけるような取組みを通じて、一層のケアの向上を図っていただくことを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時の着替えやその日の衣類などは本人にも選んでもらっている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームゆうゆう八木沢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	就寝時間を特に定めず、本人のペースで過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	通院時や外出時には、衣類をできるだけ本人の意思で決めて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付け等は利用者をお願いしている。主におしぼりや食器ふきなどを担当していただいている。	食事の際は、利用者がおしぼりを各席に出したり、食器拭きなどを手伝っている。利用者の誕生日には、該当する利用者が献立を決め、好みの食事を提供している。家族が差し入れた野菜やリンゴも頂いている。最近ではコロナ禍で外食の機会がないため、9月の敬老会の際には、寿司の海苔巻セットを出前してもらって楽しんで頂いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況はチェック表を用いて確認している。体調に合わせて柔らかさ、大きさを変えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを促している、自分でできない利用者の歯磨きは職員が介助している。毎晩入歯洗浄剤を使用し消毒している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁する前にトイレに行けるように排泄のチェック表を確認し声掛けしている。	排泄チェック表を参考に習慣やパターンに応じた声掛けや介助を行っている。前誘導や介助では、耳元で「そろそろ行きますか」と声を掛けたり、仕草を排泄のサインと捉え、羞恥心などへ配慮した対応を行っている。日中は利用者全員がトイレを利用している。1名が布パンツ、他はリハビリパンツ利用で、夜間はオムツが2名で他はリハビリパンツを使用している。1名が夜間ポータブルトイレを利用している。	

事業所名 : グループホームゆうゆう八木沢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便があるかチェック表で確認し、排便の状態を医師に伝え、便秘薬を処方してもらっている。水分摂取を拒否する方には少しずつ水以外でも飲んで頂いている。訪看来所時に腹部マッサージをしていただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	年末年始、お盆も含め一日置きに入浴して頂いている。季節の行事としてしょうぶ湯やゆず湯に入っている。	1日間隔で入浴(午前中)している。入浴を嫌がる場合には、他の職員が対応したり翌日の入浴としている。気持ち良く入浴していただくため、入浴時間の長短にも応じ、また菖蒲湯やゆず湯も提供している。昨年末に機械浴対応のリフトを導入し、入浴時の介護を軽減している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全居室ベットを備え、休みたいときに休めるようにしている。夜間何度も起きる利用者には、飲み物をお出ししたり、不安解消できるよう話を聞いたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報をファイルにまとめており、職員がいつでも見られるようにしている。時には薬剤師さんに薬の説明を頂いたりしている。薬に変更があった時などはケース記録に入力し、変化が無いかなど注意して見守っている。また通院時に医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	天気が良い日はウッドデッキに出て日向ぼっこをしている。枝豆の収穫を皆でしたり、干し柿作り等も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候により散歩やドライブなどを行っている。	コロナ禍ということもあり、外出は通院時のほか、近くの地藏堂への散歩やお参りに限られている。10月には、浄土ヶ浜まで3名ほどでドライブに出かけて風景を楽しみ、帰りに利用者が住んでいた地域を巡るなどして、気分転換を図っている。コロナ禍が収まったら、一緒に本や衣類等の買い物に出かけたいと考えている。	

事業所名 : グループホームゆうゆう八木沢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者のお金は(全員分ではないが)事務室で預かっている。利用者が買いたい物があればその都度職員が買ってきたり職員が付き添って買い物に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望時に電話を掛ける手伝いをしたり、手紙の代筆をしている。携帯電話をお持ちの方には操作を手伝っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1日2回、温度と湿度を確認し、エアコンを調整している。季節感のある装飾を心掛けている。	利用者が日中過ごすスペースは、吹き抜けの食堂兼ホールであり、2台の大型テレビを配する程度の広さがある。空調は、エアコン、床暖、加湿器、扇風機で管理されている。また、コロナ禍で密空間にならないよう、2カ所にソファとテレビが配置され、テーブルも3カ所に分けて配置されている。利用者は思い思いの場所でゆったりとした時間を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にソファを配置、ゆっくり見られるようにしている。又はテーブルで新聞を読んだり、本を読んだりと思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドとチェストは事業所で準備した。それ以外は本人とご家族が持ち込んでいる。仏壇や位牌を置いたり、ぬいぐるみやご家族の写真を飾ったりとそれぞれの利用者らしい居室になっている。	居室には、エアコン、ベッド、3段のチェストが設置され、布団類は入居時に自宅から持参している。ラックや仏壇、家族の写真を飾るなど、思い思いに過ごしやすい場所としている。また居室の扉を吊り戸式とし、高齢の方でも容易に開閉できるよう、利用しやすい配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差が無く、居室の扉も軽い力で開閉できる吊り戸である。トイレや居室の場所が分からなくなる方用に各ドア「トイレ」や入居者の名前等を分かりやすく貼りだしている。		